



神奈川県

教育委員会

平成 28 年度 小学校・中学校における

手話に関する 取組事例集



平成 29 年 2 月

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

はじめに

手話の普及推進を通じて、県民みんながお互いを大切にし、支えあう社会を実現したい。その理想を掲げて平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

そして、この趣旨に則って、平成 28 年度から 32 年度までの 5 年間の計画期間とする「神奈川県手話推進計画」が策定されました。

これを受け、県教育委員会では、児童・生徒の手話の学びの充実、教員向けの手話研修の充実など、手話を学ぶためのしくみづくりに取り組んでいるところです。

本事例集は、平成 28 年度に県内各学校で取り組まれた実践を、資料を提供していただいた学校の協力の基に作成いたしました。様々な活動をとおして取り組まれている手話の取組事例を参考にいただき、各学校において児童・生徒の実態に応じた手話に関する取組が充実することを願っています。

結びになりますが、手話の学習をとおして、児童・生徒がお互いを大切にすることに気づき、支えあう関係を実現できるようになること。また、そうした理想に向けた取組の積み重ねにより、一人ひとりが互いの個性を尊重し、自らの人生や社会をよりよいものにしていくことができるという実感をもてるようになることを期待しています。

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長

県内市町村の実践事例集 目次

◇小学校

<国語科>

- ・『わたしたち手で話します』の音読発表を
学習発表会でしょう（小田原市立酒匂小学校）・・・1

<生活科>

- ・「あたらしい1年生をむかえよう」（相模原市立大野台小学校）・・・2

<生活科・総合的な学習の時間>

- ・仲間づくり教室（松田町立寄小学校）・・・3

<音楽科>

- ・「手話で思いを伝えよう」（川崎市立稗原小学校）・・・4

<道徳>

- ・人権週間での取り組み
～「きこえない」ということ～（横浜市立矢部小学校）・・・5

<総合的な学習の時間>

- ・手話体験教室 「だれもがくらしやすいまちへ」（川崎市立小田小学校）・・・6
- ・「みんなが幸せになるために」（川崎市立古川小学校）・・・7
- ・「二分の一人成人式」（横須賀市立池上小学校）・・・8
- ・「手話教室」（横須賀市立富士見小学校）・・・9
- ・「だれもがくらしやすいまち」（大磯町立国府小学校）・・・10
- ・福祉体験「手話講座」（湯河原町立東台福浦小学校）・・・11
- ・「障がい者への理解を深めよう」（相模原市立宮上小学校）・・・12
- ・「手話体験」（茅ヶ崎市立梅田小学校）・・・13

<特別活動>

- ・「手話・検定・国際クラブ」（横浜市立東戸塚小学校）・・・14
- ・「手話で歌おう，心を込めて」（大和市立緑野小学校）・・・15

- ・「手話教室」（鎌倉市立稲村ヶ崎小学校） 16
- ・「手話体験」（平塚市立港小学校） 17
- ・手話教室（愛川町立中津小学校） 18
- ・「手話で歌おう」（伊勢原市立成瀬小学校） 19
- ・「歓迎の言葉」に向けて（横須賀市立明浜小学校） 20
- ・「地域の人に感謝する」（相模原市立青葉小学校） 21

◇中学校

<道徳>

- ・「365日の紙飛行機」手話歌
 ～「手話」で伝えよう「手話」でつながろう（横須賀市立常葉中学校） . . 22
- ・手話講師による講話会（厚木市立藤塚中学校） 23
- ・「いろいろな立場を理解し，寄り添う気持ちをもとう
 ～聴覚障がいのある方々との交流を通じて～」（逗子市立沼間中学校） . . 24

<総合的な学習の時間>

- ・文化祭コース別学習（横浜市立日吉台西中学校） 25
- ・福祉体験事前学習「手話で話をしてみよう！」
 （手話体験）（相模原市立弥栄中学校） 26
- ・福祉体験（横浜市立篠原中学校） 27
- ・福祉体験「手話について学ぶ」（座間市立相模中学校） 28
- ・手話を学ぶ（藤沢市立御所見中学校） 29
- ・生徒集会での手話体験（川崎市立高津中学校） 30
- ・あいさつ運動（開成町立文命中学校） 31
- ・「障がいがある方との手話交流」（秦野市立東中学校） 32

国語科

『わたしたち 手で話します』の音読発表を 学習発表会でしよう

小田原市立酒匂小学校

単元（題材）目標

- 手話の存在を知り、それがどのような場面で使われているのか理解を深める。
- 教材文『わたしたち手で話します』を学習発表会で手話を交えて音読するために、会話文の手話をおぼえる。

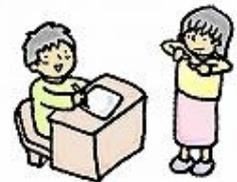
(1) 実施時期 11月下旬

(2) 対象（学年等・人数） 第3学年 28名 特別支援級 2名 小学校教諭 2名

(3) 指導者（教諭・外部講師等） 外部講師：手話サークル「たんぽぽ」より3名

(4) 実施内容

- ①手話についての話を聞く。
 - ・聴覚障がいがある方からのお話。
 - ・手話であいさつと自己紹介ができるようになる。
- ②教材文『わたしたち手で話します』の登場人物の会話文を音読しながら手話をつけよう。
 - ・登場人物の言葉に沿って手話をおぼえる。
 - ・習った手話をみんなで確かめる。
 - ・音読発表を意識して、手話がよく伝わるように工夫したことにアドバイスをもらう。



(5) 成果

本校では、学習発表会が12月初めにある。学習の成果発表の一つとして児童たちは音読発表をしようと決めた。その候補の中に『わたしたち手で話します』があり、“手話ってなんだろう？”からこの作品に興味をもち始めた。半分くらいの児童が、手で話すことを“手話”ということは知っていた。そこで、家庭学習で調べてきた児童、図書室で本を見つけた児童など、はじめのうちは、調べ学習で手話について学んでいた。本文にあわせた手話をするには、本当に手話で話ができる人から学んだ方がよいという思いから、小田原市教育委員会や社会福祉協議会の方から手話サークル「たんぽぽ」を紹介していただいた。

2回ほど、手話サークル「たんぽぽ」で活動している方をお迎えして、手話を習うことにした。初めて聴覚に障がいがある方の話し方を見たり、聞いたりした児童たちは「自分と同じようにすらすら話せるんだね」と感動していた。また、言葉だけで伝える方法に、動作を加えたら相手が自分の思いや考えをもっとよく分かってくれるということに気づいた児童もいた。1回目の学習で覚えたあいさつや自己紹介を2回目には、自分から積極的に使おうとしている児童の姿が多かった。

(6) その他

手話は、コミュニケーションツールの一つであるので、教材文通りの言葉にするためには、事前の打合せをし、文章を手話に訳す必要があることが分かった。国語の教科書（学校図書）にこの教材文があるので今後もこのような取組をする学級があると思う。また、サークル活動を維持していくためには活動費が必要であることが理解できた。学校の予算捻出が難しい中ではあるが、今後も積極的に活用したいし、紹介していきたい。

生活科

「あたらしい1年生をむかえよう」

相模原市立大野台小学校

単元（題材）目標

- 新1年生を迎えるにあたりできることを考え、進級に向けての意欲を高めることができる。
- 自分たちが受け継いできた校歌の手話を1年生に伝えることで、伝統を引き継ぐことの大切さに気付くとともに手話に対する親しみを感じることができる。

(1) 実施時期

1月～2月

(2) 対象（学年等・人数）

第1・2学年 181名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 1・2年担任教諭 6名

(4) 実施内容

- 新2年生として入学式で校歌を歌うときに、新1年生に手話をしながら披露できるようにする。
- 2年1組→1年1組 というようにペア学級で手話を教え、練習をする。

(5) 成果

- 校歌の意味を知ることができた。
手話にはそれぞれの動作に意味がある。それを確かめながら行うことで、歌詞の内容がしっかり理解できるようになった。
- 進級に向けての意欲が高まった。
2年生は1年生に教えることで、先輩としての気持ちが高まった。1年生は、入学式で披露することで、昨年の入学式を思い出し、小学校生活が1年たち成長した自分に気付くことができた。
- 伝統を受け継ぐ態度が育った。
毎年入学式で行っていることなので、自校の校歌の内容を知り、誇りに思うことにつながった。

(6) その他

異学年で交流することにより、上級生としての自覚や進級への希望が生まれた。



生活科 第1, 2学年
総合的な学習の時間 第3~6学年
仲間づくり教室

松田町立寄小学校

単元（題材）目標

○児童が互いにふれあう活動をとおして、助け合う大切さやよりよいコミュニケーションについて考えさせる。また、仲間を尊重する気持ちを育むとともに、自己肯定感を高める。

(1) 実施時期 11月

(2) 対象（学年等・人数）

1～6年生 31名，保護者 10名，
小学校教員 11名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：五感教育研究所所員 1名

(4) 実施内容

①ガリガリ飛行機作り

・自然の材料を工具で加工することにより、五感を使った創作活動を楽しむ。友だちと協力して作業したり、できた作品を比べ合ったりすることで、コミュニケーション能力の育成を図る。

②歌とゲーム活動

・大杉班（異年齢グループ）で協力して、コミュニケーションゲームを行う。
・様々なコミュニケーションツールの中から手話を取り上げ、簡単な手話の基本を学習してから、手話を交えた歌を歌う。

③まとめ

・人はそれぞれに特性や立場があることを理解し、積極的にコミュニケーションをとっていくことが大切であることを伝える。

(5) 成果

○生活の中の様々な活動において、積極的に周りとのコミュニケーションをとっていきることが大切であることを理解することができた。

○コミュニケーションツールとしての手話を交えた歌を歌うことを通して、聴覚障がいの方に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションをとっていかようとする意欲を高めることができた。

(6) その他

○保護者にも参加してもらえるように、学校公開日に実施した。



音楽

「手話で思いを伝えよう」

川崎市立稗原小学校

単元（題材）目標

- 1年生らしく，明るくのびのびと元気に歌う気持ちを育てる。
- 気持ちを伝える手段には手話があることを知り，障がいについて理解を深める。

（1）実施時期

7月～9月

（2）対象（学年等・人数）

第1学年1組 33名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

学級担任

助言者：音楽専科教員

（4）実施内容

朝の歌で『世界がひとつになるまで』や『ビリーブ』を歌ったところ，かつて在籍をしていた幼稚園で数人が手話をやったとの声上がり，すぐに他の児童も「やってみよう」という雰囲気になった。1年生らしい歌声と，思いを伝え合う手段として手話の存在を感じてほしいという担任の思いが重なり，すぐに練習が始まった。既に手話で歌を表現できる子どもたちと担任が中心となり，一つひとつの動きをみんなで確認して覚え，全員がすぐに手話に慣れ親しむことができた。

練習の過程では，担任から手話とは何か，どんな時に使うのかについて補足の説明を行った。

（5）成果

- 歌に手話をつけることで，さらに歌う表情が豊かになった。
- 思いを伝える手話を覚えたことにより，自信をもつてのびのびと表現する力がついた。
- 歌の意味を，手話の動きを通してより理解することができた。
- 手話をしながら歌うか活動を通して，クラスの一体感をより感じるすることができた。

（6）その他

練習した成果を朝会や地域の高齢者との交流会で披露した。

道徳 人権週間での取り組み ～「きこえない」ということ～

横浜市立矢部小学校

単元（題材）目標

- ハンディキャップのある人に対し、自分のできることは何かに気付き、実践しようとする思いを育てる。
- 自分の周りには様々な人がいることを知り、思いやりのある態度を養うとともに、自分や自分以外の人を大切にしていこうとする思いを高める。

（1）実施時期

11月下旬

（2）対象（学年等・人数）

2学年 96名，1学年 90名，小学校教員9名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校職員：栄養職員1名

外部講師：市内在住聴覚障がい者（教諭親族1名）



（4）実施内容

①「きこえないことについて」のお話（2学年：学級ごと，1学年：学年全体）

- ・講師の方の紹介をしながら、パワーポイントを使って○×クイズ形式で、「きこえないことについて」の理解を深めた。（手話通訳あり）

（例：耳のきこえない人は全く何も音が聞こえない。→×：全く聞こえない人もいるけど少し聞こえる人もいる。人によって聞こえ方が違う。）

②手話体験

- ・「きこえない人とお話してみよう」ということで、話す手段はいろいろあることを知った。（口語，筆談，手話，指文字，等）
- ・「手話をおぼえよう」・・・簡単な会話（あいさつ，自分の名前等）を手話や指文字を使って，全体で実践したり，代表児童が実際に講師に手話で自己紹介をしたりした。

◎「これから，自分の周りできこえない人がいたら，どういう気持ちで，どう行動したらよいか。」ということをして，一人ひとりが考えることで，振り返った。

※手話が分からなくても，自分から関わろうとする優しさや勇気をもつこと，大きく口を開けて，表情を交えながらゆっくりと話すことが大切であるという指導を心がけた。

（5）成果

- ・耳が聞こえない人は，「手話」で話すことを知りました。指文字も難しくないのかなあと思いました。これからは耳が聞こえない人に親切にしたいです。
- ・耳が聞こえない人は手話をつかうことや大きく口でゆっくりとしゃべったり手で大きく字を書いたりすることで伝わります。もっと手話を覚えて人に優しくしたいです。
- ・耳が聞こえない人が困っていたら，私は話しかけて友達になります。
- ・耳が聞こえない人の話を聞きました。聞こえない人がどうやって過ごすのか教えてくれました。これからもみんなと友達になって仲良くしたいです。

総合的な学習の時間
手話体験教室
「だれもがくらしやすいまちへ」

川崎市立小田小学校

単元（題材）目標

- 体験学習やゲストティーチャーの話から障がいのある人の気持ちを考えることができる。
- 自分が感じたことから、課題を見つけ本やインターネットなどで調べることができる。
- 体験したことや調べたことから、これから自分にできることを考えることができる。

（1）実施時期

12月中旬

（2）対象（学年等・人数）

4学年 86名，小学校教員4名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4年所属3名，いちご級所属1名

外部講師：「川崎区聴力障害者協会」3名，「手話サークルわかば」4名

（4）実施内容

①講演会：「聞こえないってどんなこと？」（学年全体）

- ・耳の不自由な人について
- ・耳の不自由な人とのコミュニケーションの方法
- ・耳の不自由な人が使うと便利なもの

②手話体験：（各学級）

- ・各学級に講師2名（聴覚障がいの方と通訳）
- ・手話であいさつしよう
- ・手話で気持ちを伝えよう
- ・名前の表し方を覚え，自己紹介をしよう

（5）成果

- 聴覚障がいの方に対する理解を深め，いろいろなコミュニケーションの方法があることを知ることができた。
- 手話に興味をもち，手話で簡単なあいさつや自分の名前を伝えられるようになった。

（6）その他

- 同時期に視覚障がいの方や点字サークルの方にもゲストティーチャーとして来校していただいた。

総合的な学習の時間 「みんなが幸せになるために」

川崎市立古川小学校

単元（題材）目標

○障がいのある人や高齢者について学ぶことを通して、自分にできることを考えることができる。

（1）実施時期

11月～1月

（2）対象（学年等・人数）

4学年

（3）指導者（教諭・外部講師等）

学級担任



（4）実施内容

国語「だれもが幸せになるためには」を導入とし、総合的な学習と関連させて福祉の学習を行った。様々な障がいがある中で、それぞれが興味をもったことについてグループで調べ学習をし、グループごとに発表をした。

○手話体験…教育委員会から配付された手話リーフレットをもとに、全員が自分の名前と簡単なあいさつ表現を体験した。

○手話グループの発表

- ・手話での自己紹介
- ・よく使われる日常会話について
- ・外国と日本の手話の違いについて
- ・聴覚障がいの人たちの困り感について
- ・「うみ」を手話つきで歌う
- ・自分たちにできること

（5）成果

・手話に興味をもち、自分の名前以外にも手話を使って表現しようとする子どもたちの姿が見られた。

・手話グループでなかった子どもたちも、手話を体験することによって、聴覚障がいをもつ人たちとどのように接していくか、自分ができることを考えることができた。

<児童の感想(一部)>

- ・聴覚障がい困っている人たちを手話で勇気づけたいと思った。
- ・聴覚障がい困っている人がいたら、自分から声をかけて助けたいと思った。

（6）その他

今後授業参観の際に保護者にも調べたことを発表する機会を設けている。

単元（題材）目標

○10歳を迎えるにあたり、今までの自分を家族や学校の仲間とともに振り返ることで、自身の成長を実感し感謝の気持ちをもつ。そしてその感謝の気持ちを様々な表現方法で関わりのある人に伝える過程の中で、自身の自立を促す。

(1) 実施時期

- 12月～1月 事前の取り組み
- 1月中旬 「二分の一成人式」当日

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年（116名）

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

第4学年学級担任、学校司書

(4) 実施内容

- ①家族や学校の仲間と今までの自分を振り返り、自身の成長について考える。
- ②二分の一成人式を企画する（1）（取り入れたい内容や表現の方法など）
- ③日本語のほかに、学習した外国語や同じ言語として「手話」があることを知り、手話について学びあう。
 - ・手話とは何か、どのような時に使われているのか
 - ・手話の表現を本やパソコンを使って調べる
 - ・調べたことを共有しあい、実践してみる
- ④二分の一成人式を企画する（2）
 - ・英語劇、歌、お祝いのあいさつ（ここで手話を取り入れる）
 - ・保護者や近隣の日頃お世話になっている方々を招待する
- ⑤二分の一成人式当日（1月14日）

(5) 成果

- 手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。
- 校内に掲示してある手話のポスター等を見て、自ら手話を学ぼうとする姿勢が見られた。
- 手話体験を通して、手話がコミュニケーションツールの一つであることを理解することができた。

(6) その他

- 保護者にも参観してもらい、家庭でも手話について話題になるようなきっかけづくりをした。
- 校内に手話のポスター等掲示し、子どもが自然に気付くよう促した。

総合的な学習の時間 「手話教室」

横須賀市立富士見小学校

単元（題材）目標

- 相手の話をよく聞き，思いやりの心を大切にする。
- よく考え，協力し合う力を身に付ける。
- 自ら進んで，活動を楽しむ力をもつ

（1）実施時期

平成28年10月27日（木）5・6校時

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 53名，第4学年担当教員2名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：市内ボランティアスクール「横須賀市聴覚障害者協会」と「横須賀手話指導勉強会」より1組

（4）実施内容

①講演会：「聴覚障がいについて」（各クラス 1時間ずつ）

- ・まず始めに，聴覚障がい者はどちらか。
 - ・聴覚障がい者が困ること
 - ・聴覚障がい者の生活
- （手話通訳あり）

②手話体験

- ・簡単な会話（あいさつ・自分の名前）
- ・手話に関する基本的知識
- ・指文字による五十音の表し方
- ・聴覚障がい者と話してみよう（口話・身振り・手話・筆談・空書・指文字）

◎最後に，学習発表会を控えていたので，演目を手話で教えていただいた。



（5）成果

- 聴覚障がい者の気持ちや日常生活を知ることができた。
- 手話に興味をもち，事後の学習で本やインターネットで調べ，自分の名前を手話で紹介できるようになった。
- 学習発表会で教えていただいた手話を使って，演目紹介をすることができ，保護者にも周知することができた。

（6）その他

今回の学習で終わるのではなく，学習発表会で手話を発表したり，2分の1成人式で発表する予定である。

総合的な学習の時間 「だれもがくらしやすいまち」

大磯町立国府小学校

単元（題材）目標

- 自分たちのまわりには、様々な人々がいてそれぞれに生活を送っていることに気付く。
- 障がいのある人々や高齢者の生活にふれることにより、誰もが幸せに生活できるにはどうしたらよいかについて考える。
- 皆がともに幸せに暮らせるように、日々の生活の中で自分ができることを実践していこうとする。

(1) 実施時期 10月24日（月）

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年 11名，小学校教員3名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4年所属3名

外部講師：町内手話サークル「磯の会」9名



(4) 実施内容

手話体験：各学級で手話実践

- ・各学級に講師3名（聴覚障がいの方1名，ボランティア2名）
- ・聴覚障がいの方のお話（生き立ち，生活の様子など）
- ・簡単な会話（あいさつ，自分の名前等）
- ・自己紹介
- ・簡単なものの名前（絵を見てどのような手話か考える）
- ・手話における拍手の仕方



(5) 成果

- 手話に興味をもち，手話であいさつをしたり，自己紹介をしたりすることができた。手話によるコミュニケーションの楽しさを味わうことができた。
- 聴覚障がい者に対する理解を深め，困っている人がいたら助けたいという心情をもつことができた。

総合的な学習の時間 福祉体験「手話講座」

湯河原町立東台福浦小学校

単元（題材）目標

- 様々な人との関わりを通して、相手の立場に立って行動しようとする心を育む。
- 聴覚障がいの方の話聞き、自分たちにできることを考える。

(1) 実施時期 6月25日（土） 第3、4校時

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年24名、小学校教員1名、保護者3名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：手話サークル「心」6名

(4) 実施内容

- ①聴覚障がいについて体験談を聞く。
 - ・聴覚障がいの方がこれまで体験してきたことや困ったことについて話を聞く。
- ②手話体験
 - ・よく使う物や動作の表わし方
 - ・あいさつの仕方
 - ・五十音の表わし方
 - ・自分の名前の表わし方
 - ・歌「さんぽ」



(5) 成果

今回、初めて聴覚障がいのある方と関わるということで、まずは、“障がい”というとらえについて、その方が生きてこられた中で経験されてきたことや思い等、手話通訳を交え、4年生段階の児童にわかりやすい言葉で説明していただいた。

そのあと、1時間程度、いくつかの実践的活動に取り組んだ。クイズ形式で考えさせてくれたり、児童2、3人に1人の割合で外部講師のサポートがあったりしたので、児童は楽しく自信を持って活動することができた。手話に関する基本的な知識を学ぶとともに、手話や指文字の表し方を実践することで、「自分にもできそうだ。」と実感することができた。そして、「もし、耳の不自由な人や話せない人がいたら、助けてあげたいな。」という感想をもつことができた。

(6) その他

保護者や地域の方々が参観したり、参加したりできるように、学校公開日に設定した。

総合的な学習の時間 「障がい者への理解を深めよう」

相模原市立宮上小学校

単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、社会には様々な人がいることを理解し、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 同じ社会に生きる人間として、お互いを正しく理解し、ともに助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学び、日常の学級の活動に生かす。

（1）実施時期

10月初旬～中旬

（2）対象（学年等・人数）

5学年 109名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：5年所属3名

外部講師：3名（聴覚障がいの方2名、手話通訳1名）



（4）実施内容

※「聴覚障がい理解」「視覚障がい理解」「肢体障がい理解」の3つのコースを設定し、児童の希望によりグループを編成。

① 講話：聴覚障がい理解コース約30名

- ・日常生活の中で困ることや、不便さを解消するための手立て等について、聴覚障がい2名の方から話を聞く。（手話通訳あり）

② 手話体験：聴覚障がい理解コース約30名

- ・聴覚障がいの方1名から指導を受ける。（手話通訳あり）

〔意思表示のために必要な手話、自己紹介に必要な手話、
学校生活に関連する言葉を表す手話 等〕

③ 発表会：各学級で実施

- ・グループ毎に発表を行い、それぞれのコースでの学びを学級全体で共有し、様々な障がいについて理解を深める。
- ・「聴覚障がい理解コース」で学んだ児童は、簡単な手話の実演を交えて発表を行い、学年全員が簡単な手話を体験できた。

（5）成果

- 手話に興味を持ち、もっと知りたいと思う児童が増えた。
- 手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった児童もいる。
- 障がい者に関するニュースが児童の会話にあがるようになった。

〈児童感想 一部抜粋〉

今まで、障がいのある人を見かけても何をしてよいかわからなかったが、簡単な手話を学び、自分にもできそうなことがあると思えるようになった。手話が難しいときも、表情や身振り・手振りで気持ちを伝えていきたい。

総合的な学習の時間 「手話体験」

茅ヶ崎市立梅田小学校

単元（題材）目標

○体験的な学習活動を通して福祉について実感を伴った理解を図り、みんなが幸せに過ごすための協力について考えるなど、今後の発展的な学習につなげる。

(1) 実施時期 6月中旬

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年 134名 保護者 20名 小学校教員 5名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：4年所属 5名

外部講師：茅ヶ崎市視覚障害者福祉協会 2名

茅ヶ崎誘導グループ草笛 8名

茅ヶ崎市点訳赤十字奉仕団 6名

茅ヶ崎市聴覚障害者協会 4名

手話サークル「松の会」 5名（聴覚障がいのある方、手話通訳の方等）

(4) 実施内容

①講話『視覚障がいについて』『車いすについて』

②アイマスク体験（アイマスク体験とその介助をペアで行う。）

③点字体験（点字の作成と読み取りを体験する。）

④手話体験

- ・ジェスチャーなど身振り手振りによる意思の伝達
- ・手話に関する基本的知識
- ・あいさつや自分の名前など簡単な手話
- ・指文字による五十音の表し方
- ・聴覚障がいによる不便な点や困り感
- ・聴覚障がいの方への適切な接し方や協力のあり方等
- ・積極的なコミュニケーションの大切さ



(5) 成果

体験的な活動を通して障がいのある方の困り感を実感したことで、児童にみんなが幸せに過ごすことができるように協力したいという気持ちが芽生え、その後、意欲的に福祉の学習に取り組むことができた。また、児童の振り返りや感想からも、多くの児童が障がいのあるなしに関らず、積極的に人とかわる大切さを理解し、身近なところから実践していこうと考えている様子が窺えた。その中で、あいさつ程度の手話を覚えるなど、具体的な活動につなげることができた。

特別活動 「手話・検定・国際クラブ」

横浜市立東戸塚小学校

単元（題材）目標

○望ましい集団活動を通じて、自分たちの手で計画し解決していく中で、互いの個性や特徴を認め合いながら集団の一員としての自覚を深め、社会性を育成する。

（1）実施時期

通年（年間18回のクラブ活動にて実施）

（2）対象（学年等・人数）

4・5・6年 手話・検定・国際クラブの児童13名



（3）指導者（教諭・外部講師等）

クラブ担当者（児童支援専任・音楽専科教諭）

（4）実施内容

○手話活動で友達と交流する（活動前半）

- ①自己紹介・・・・・・・・自分の名前を手話で相手に伝える。
- ②数 字・・・・・・・・手話での数字を覚えて、活動に使う。
- ③手話フルーツバスケット・・・・・・・・色や物など課題を決めて、手話で交流する。
- ④手話進化ゲーム・・・・・・・・（卵・虫・鳥・猿・人・飛行機）の課題を決めて、手話で交流する。

○国旗検定・科学検定・漢字検定問題にグループで取り組む（活動後半）

（5）成果

- ・検定や国際の活動を希望した児童もいるが、手話に接して手話の活動を楽しみにする児童も増えてきた。
- ・「5・6年生と一緒に手話で楽しく遊べた、よかった」、 「手話で友達と交流できてよかった」と前期の活動を振り返る児童もいた。

（6）その他

- ・毎年のクラブ発表会では、手話も交えて、活動内容の報告を行っている。
- ・クラブ活動で手話を希望する児童が少ないが、毎年、設定クラブの中に、手話を設置している。

特別活動 「手話で歌おう，心を込めて」

大和市立緑野小学校

単元（題材）目標

- 全校児童が，手話に親しむ。
- 手話が言語であることを意識し，心を込めて手話で歌う。

（1）実施時期

- 10 下旬「感謝の集い（登下校ボランティアへ感謝する会）」
- 7 月上旬，2 月中旬「音楽朝会」
- 3 月上旬・中旬「さよなら6 年生」「お別れ式」

（2）対象（学年等・人数）

全校児童 752 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：教務，各担任



音楽朝会の様子

（4）実施内容

- 年間3回の音楽朝会のうち，2回（2曲「世界がひとつになるまで」「きみとぼくのラララ」）は，すべて手話をしながら歌った。
- 音楽朝会以外の式や行事で，音楽朝会で練習した歌に取り組み，披露した。

（5）成果

- 音楽委員会の児童が，全校児童の前で手話を披露するため，特に熱心に取り組んだ。朝会の時には舞台上で歌いながら手話を行い全校の見本となった。
- 教務は指導の中心となり，各クラスへ指導に行ったので理解が深まり，どのクラスも朝会の時には上手に手話をするのができ，全校が一体感を持つことができた。
- 4年生では，国語の手話教材と関連して総合的な学習の時間で福祉をテーマに取り組み，講師として聴覚障がいのある方をお呼びした時も，手話の歌に取り組んでいたため手話の動きを覚えており，先行経験として役立った。また，講師の方へのお礼として朝会で歌った歌を手話で披露し，講師の方も喜んでくださり交流することができた。
- 全校児童が1年間通して取り組んだことで，手話に慣れ親しむことができた。

単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 人間一人ひとりが、かけがえのない存在であることを理解し、学級の活動にいかす。
- 手話に対する関心を深める。

（１）実施時期

1月中旬

（２）対象（学年等・人数）

第3学年 38名 教員2名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教員2名

（４）実施内容

①手話について

字の由来，使い方

②耳が聞こえなかったらどうなるか？（質問形式）

③今使われている耳の聞こえない人の為にあるもの

フラッシュランプ，聴導犬 等

④手話の動きの意味

⑤二人一組になって，手話で名前や家族の人数等の簡単な自己紹介をする。

（５）成果

- 日本で手話を使う人が34万人いること等，具体的な事例を取り入れた説明が多かったため，手話に対する興味が広がった。
- 手話の動きの意味を示しながら説明したため，手話に対する理解を深めることができた。
- 会話形式で自己紹介をしようということで，手話でのコミュニケーションの楽しさを味わうことができた。

（６）その他

自分の名前を答える為に，あいうえお表（ゆびもじ五十おん）等のプリントを配付した。

特別活動 「手話体験」

平塚市立港小学校

単元（題材）目標

○様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。

（1）実施時期

- ①12月初旬
- ②12月中旬

（2）対象（学年等・人数）

- ①5年生 40名
- ②5年生 138名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：外部ボランティア団体 30名

（4）実施内容

- ①・あいさつ
 - ・自己紹介
 - ・講師の生い立ちや、耳が聞こえなくなった時の気持ちを聞く。
 - ・耳が不自由な人がつかう機器の紹介（目覚まし時計や家のチャイムなど）
 - ・児童一人ひとりの名前を手話で講師から教授してもらった。
- ②・あいさつや自己紹介、家族構成の表現の仕方
 - ・「世界に一つだけの花」を手話で表現しながら歌う。

（5）成果

- ・耳の不自由な人の生い立ちや生活を聞くことで、その人の気持ちに寄り添うことができ、これから耳の不自由な人と出会った時には、自分には何ができるのか考える契機となった。
- ・身近なあいさつの手話表現を知ること、手話に親しむことができた。
- ・歌を手話で表現できると知ったことで、手話により興味をもち、福祉学習を深めることができた。

手話教室
特別活動（学級活動） 第1学年
生活科 第2学年

愛川町立中津小学校

単元（題材）目標

○耳の不自由な方が、コミュニケーションを図る手段の一つとして、手話を用いることを実際に経験しながら知ることができる。

（1）実施時期

10月，12月

（2）対象（学年等・人数）

第1学年 79名

第2学年 103名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

社会福祉協議会・手話ボランティア



（4）実施内容

○手話体験（各教室で実施）

ひらがなの指文字，簡単なあいさつや言葉，「世界が一つになるまで」の歌など。

※手話を身近に感じるように指導していただいた。また，2年生は去年の体験もふまえて進めていただいた。



（5）成果

○手話体験を通して，聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

○手話に興味を持ち，実際に手話を使って伝えようとする姿が見られた。

（6）その他

12月の人権福祉月間の中で，毎年国際福祉委員会が福祉体験コーナーを設けている。全学年対象に手話，アイマスク，点字などの体験を昼休みに行い，低学年を中心に多くの児童が参加した。

特別活動（児童会活動，学級活動） 「手話で歌おう」

伊勢原市立成瀬小学校

単元（題材）目標

- いろいろなコミュニケーションの仕方があることに気付き，やってみようとする。
- 障がいを乗り越えて，必死に伝えようと努力している人に気付く。

（1）実施時期

- ① 4月
- ② 2学期

（2）対象（学年等・人数）

- ① 第2学年全員（123名）
- ② 第2学年3組（32名）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

学級担任



（4）実施内容

- 2年生全体で，1年生を迎える会に「君とぼくの間」を手話をしながら歌い，プレゼントとした。
- 2学期になり，2年3組32名がDVD「手話でうたうこどものうた」を視聴しながら，手話の歌に挑戦した。
「青い空に絵をかこう」，「WA になっておどろう」，「LET'S GO いいことあるさ」

（5）成果

- 手話を交えた歌を楽しく歌うことを通して，手話という表現方法があることを知った。
- 2学期になり，他の手話の歌に挑戦した。DVD映像の指導者の発音が聞き取りにくい面があったが，聴覚を失っている人が，発音の仕方を覚えるために一生懸命努力していることを理解できた。このことによって，尊敬の気持ちを持って視聴し，手話をしながら歌を楽しむことができた。

（6）その他

- 朝の会等で，覚えた歌を手話を交えて繰り返し歌った。

特別活動（入学式） 「歓迎の言葉」に向けて

横須賀市立明浜小学校

単元（題材）目標

- 新入学児童に、小学生になった喜びと期待を持たせる。
- 新入学児童の保護者に、小学校の雰囲気を知らせる。
- ◎進級の喜びを味わうとともに、新入学児童を歓迎する気持ちを育てる。
- ☆手話も一つの言語であることを学び、第2の校歌である「明小大好き」の歌を通して伝承していく。

(1) 実施時期 取組期間… 2月～3月 発表… 4月（入学式当日）

(2) 対象（学年等・人数）

1年生 108名

*入学式…新入学児童 114名 その保護者

新2年生 108名

小学校教職員 45名 来賓 20名



(3) 指導者（教諭・外部講師等）

○本校教諭 4名（1年生担任）

○手話DVD（「明小大好き」の曲と手話の映像）

*数年前に自作したもの 代々1年生に伝えられている。

(4) 実施内容

○入学式での「歓迎の言葉」の内容を知り、呼びかけや歌・パフォーマンスの練習を行う。

☆「明小大好き」の歌は、手話表現で歌われていることを再確認する。

☆聴覚障がいについての話や、手話に関する話を簡単に聴く。

☆歌に使われている手話の意味を知り、実践練習を行う。

☆各学級でそれぞれ練習を積み、さらに学年全体で合わせていく。

(5) 成果

○手話に興味をもてた。指文字を覚え、自分の名前を表す児童もいた。

○歌詞の中の手話での言葉の意味を知ることができた。

○身内に聴覚障がいの方がいる児童から、日常生活の様子について聞くことができた。

(6) その他

○入学式で発表することで、多くの人たちに手話が認知される機会になっている。

特別活動・道徳 「地域の人に感謝する」

相模原市立青葉小学校

単元（題材）目標

- お世話になっているボランティアの方々や長寿会の方々とふれ合い、歌【手話】やカードのプレゼントをして、日頃の感謝の気持ちを表す
- 福祉委員会の児童を中心に、「地域に感謝する会」を計画し、主体的に合唱【手話】やカードづくりに取り組む
- 各学年の「道徳の時間」の学習を通して、地域の方々に、尊敬や感謝の気持ちをもつ

（１）実施時期

2月上旬～下旬

（２）対象（学年等・人数）

- ・全校児童 372名
（福祉委員会児童12人、代表委員8人）
- ・教員20名
- ・地域のボランティア【防犯ボランティア、自治会、長寿会、読み聞かせボランティア等】



（３）指導者（教諭・外部講師等）

福祉委員会担当教諭（2名）、福祉委員会児童（12名）

（４）実施内容

- ①「地域に感謝する会」の活動計画を作成する（福祉委員会）
- ②歌の選曲【365日の紙飛行機】と手話の練習（福祉委員会）、ビデオ収録
 - ・福祉委員が朝休みに各教室を回り、歌と手話の伝達指導をする。
 - ・2月の歌として全校で取り組んで歌う【手話ビデオ放送】
- ③各学年に応じた資料を使って、「尊敬」「感謝」の学習を行う【道徳の時間①】
- ④ありがとうカードの作成
- ⑤地域の方々をご招待し、「地域に感謝する会」を実施する

（５）成果

- 地域の方々も知っている曲に手話を取り入れたことで、親しみが増し、地域の方とのコミュニケーションがスムーズにとれた。
- 歌に手話を取り入れ全校で取り組んだことで、児童が手話に興味をもつようになった。
- 福祉委員会の意欲的な取組が見られ、学校生活に生かそうとする姿が見られた。

（６）その他

- インフルエンザの流行に伴い、当初予定をしていた体育館での全校合唱が実施できなかった。代表委員と福祉委員会の児童が代表として地域の方々とふれ合い、各教室からはビデオに合わせて大きな歌声が響き、地域の方々に思いを届けることができた。
- 夏季休業中に外部講師による手話体験講座を実施し、7～8人が参加した。
- 総合的な学習の時間で4年生が高齢者体験、点字、手話、車いす等の福祉体験をする。

道徳

「365日の紙飛行機」手話歌 ～「手話」で伝えよう「手話」でつながろう

横須賀市立常葉中学校

単元（題材）目標

本主題では身近な人に思いやりの心を持って接する取組のひとつとして、耳の不自由な方の立場を想像しながら「手話」を使った歌を学習した。さらに「手話」で学級の仲間がつながる取組ともしたい。

- 人間愛の精神を深め、だれに対しても温かく接していこうとする心情を育てる。(2年)
- 相手を尊重し、思いやりの心をもって、温かく接していこうとする態度を育てる(1年)

(1) 実施時期 12月初旬

(2) 対象（学年等・人数）

全学年

第1学年 167名 第2学年 167名 第3学年 160名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

各学級担任

(4) 実施内容

- ① 昨年の「手話」授業を想起させ、手話を使って話をするときに注意すべきことを確認する。
 - ・手話による挨拶の仕方
 - ・手話を使って自分の名前を伝える復習
 - ・「知っている」ことが「わかり合うこと」の第一歩であるという考え方
 - ・相手の気持ちに寄り添った伝えかたをすることの大切さなどを思い出す。
- ② 本時に扱う「365日の紙飛行機」での歌詞のキーワードとなる手話を担任が生徒に手話で伝える。（「人生」「一生懸命(力の限り)」「紙飛行機」の3つ）
- ③ 手話歌を実際に行い、覚える。
 - ・1番のサビ部分だけを繰り返しDVDで視聴する。
 - ・手話をコマ図にしたプリントで学習する。
 - ・班での教え合い
- ④ この歌詞で伝えたい部分についてワークシートに記入し交流する。
 - ・伝えたい部分は特に「相手を意識しながら」わかりやすく手話することを心がけさせる。
- ⑤ 成果を発表する。



(5) 成果

- 「手話」というコミュニケーションツールを知ることが聴覚障がいについて知ることにつながることやツールを活かすためには「相手の気持ちに寄り添って」行うことが大切であることを感じられた。

〈生徒の感想 一部抜粋〉

- ・手話を必要とする人がいると思うけれど、自分の身近にはいなかったので今回授業でやって難しいと感じた。たくさんの言葉を手で伝えるというのは伝わりにくいことも多いと思うけれど、多くの人に手話が身近にあるということがわかる世界になるといいと思った。(1年生)
- ・伝えようと思う気持ちが体や表情から出ていてすごいなと思いました。耳は聞こえないかも知れないけれど、それを忘れさせるような気持ちになる手話をしていて、それがすごいし大切なんだろうと思った。(2年生)
- ・私には親戚に聴覚障がいを持つ人がいて、その人が手話を使っているときに相手にニュアンスを伝えるのが大変そうだなと思っていましたが、今日の手話で歌を歌ってみて大変そうだなと思っていた手話で歌のメロディまで表情など体全体を使ってあらわせることを知って思いというのは何でもどんな方法でも伝えることができるのだと感じました。(2年生)

(6) その他

- ワークシートについては校内廊下に掲示し、全校で交流した。
- 3月に行われる「3年生を送る会」でも全校で行う。

道徳 手話講師による講話会

厚木市立藤塚中学校

単元（題材）目標

- 講師の人生や仕事，生活，社会貢献活動等に触れさせ，『生き方』や『考え方』を学び，より良いかつ豊かな生き方とは何かを考えさせる機会とする。
- 障がいに関する理解を深めるとともに，生命の尊さを理解し，かけがえのない自他の生命を尊重する意識を養う。

(1) 実施時期 6月下旬

(2) 対象（学年等・人数）

第2学年1学級33名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：2年該当学級担任 1名

外部講師：厚木市聴覚障害者協会

厚木市手話サークル あゆの会 2名



(4) 実施内容

①講話：「聴覚障がいについて」

日常生活の中で耳の聞こえないことがいかに大変かについて，またコミュニケーションツールとして手話の理解を深めることの意義について，2名の方から実例を交えながらの話をうかがう。

②手話体験：学級で手話実践

・講師2名（手話サークルの方），学級担任1名による指導

・簡単な会話（あいさつ，自分の名前等），手話に関する基本的知識，指文字による五十音の表し方等を教えていただき，生徒は手話を使って簡単な自己紹介等を体験した。

(5) 成果

○学級担任に手話に関する知識や技能が少なからずあるため，日常的に手話に触れる機会には，比較的恵まれていたが，より専門的な知識や技能に直に触れたことで今まで以上に実感を持って手話を多面的・多角的に理解することができた。

○手話を使ってのコミュニケーションによりいっそう関心が高まり，生徒の会話からは機会があったら実際に使ってみようという意欲の高まりを感じる事ができた。

(6) その他

○当該学級以外の学級も別の分野で活躍してられる方々をお招きして，お話をいただいた。

○本校ホームページにて，活動の様子を紹介した。

道徳 福祉教育

「いろいろな立場を理解し、寄り添う気持ちをもとう
～聴覚障がいのある方々との交流を通じて～」

返子市立沼間中学校

単元（題材）目標（学習指導要領 道徳編より）

- 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。
- それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心を持ち謙虚に学ぶ。
- 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。
- 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

(1) 実施時期 3月上旬（3年生卒業期間）

(2) 対象（学年等・人数） 第3年学年 91名，教員，保護者

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

- 本校教員 6名
- 逗葉ろうあ協会会長，ボランティアセンター，手話サークルの方々

(4) 実施内容

- 講師の先生による講話
 - ・聞こえの程度や聞こえなくなった時期のこと
 - ・「聞こえないこと」とは何か？
 - ・家の中で困ることは何か？
 - ・外で困ることは何か？
 - ・コミュニケーションの方法について
- 体験学習「こんなとき、どうしたらいいかな？」
 - ・自分が、聴覚障がいの人に出会ったとき、どう接すればいいか？
 - ・聴覚障がいのある人は、困っているときどのように接してほしいか？→実際に状況を設定して体験する（ロールプレイのように）
 - 【ロールプレイの内容】
 - ・鍵落としましたよ！ ・コンビニでのアルバイト
 - ・ミニ手話講座 → 会話してみよう

(5) 成果

手話の体験はもちろんのこと、耳の不自由な人と接する上で自分たちがどうすればいいか、また困っている時にどうしてほしいかということ、実践を交えて体験できた。このことは生徒にとって、今後社会に出たときに困っている人に対して手を差しのべてみようとするきっかけになったと思う。いつかこの授業を思い出して、そのような場面に直面したら、行動に移せるような人になってほしいと思う。

(6) その他

このような取組は、2015年度に初めて行った。今後は社協・ろうあ協会・手話サークルとの連携をスムーズに行うことができるように系統立てていきたい。また、今回は3年生の卒業期間の特別時間割の中で行ったが、1・2年生でも実施できるように、授業の組み立てを行っていきたい。

総合的な学習の時間 文化祭コース別学習

横浜市立日吉台西中学校

単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 手話について学習し、手話で会話をしよう。
- 点字について学習し、点字を打ってみよう。

（１）実施時期

10月初旬から10月末 1時間20分のコース学習×13 当日の発表

（２）対象（学年等・人数）

コース別学習 1年7名 2年6名 3年3名 職員1名
文化祭当日は、来場者100名位

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校職員：2年所属1名

（４）実施内容

- 1 「障がいについて」の学習
- 2 手話とは、点字とは
- 3 班分け 縦割りに3班 班別学習内容の検討 学習計画作成
- 4 手話学習
 - ・簡単な挨拶（あいさつ、自分の名前、班員の名前紹介等）
 - ・手話に関する基本的知識
 - ・指文字による五十音の表し方
- 5 班別学習（3班）

図書室から参考書を集めて、班別に学習を進める。

1班 絵本「トマトさん」を手話に訳し、発表する。

2班 絵本「どろんこハリー」を手話に訳し、発表する。

3班 校歌を手話に訳し、発表する。
- 6 当日の発表
教室に点字の学習ができるように点字機をセット
手話を教えられるように机と椅子を設置
来場者に点字、手話のプリントを配布し教えた。
来場者が集まったところで、各班が発表した。
- 7 振り返り
班ごとに反省会をもち、文化祭のしおりに記入した。



（５）成果

手話に関心を持ち、障がい者への理解を深め、今後に活かしていきたいと感想をもった生徒が多くいた。

総合的な学習の時間
福祉体験事前学習
「手話で話をしてみよう！」（手話体験）

相模原市立弥栄中学校

単元（題材）目標

- 社会に生き、社会を支える一員として、他者の立場になって自分ができることを考え、他者との望ましい相互理解の関係を学ぶ機会とする。
- 障がいのある方々の声を実際に聞き、その生活を知り、社会に生きる中での大変さを肌で感じる体験を通して、「共生」の心を育む機会とする。
- 手話によるコミュニケーションの大変さを体験することを通して、障がいのある人の気持ちを理解する。

（1）実施時期

6月2日（木）

（2）対象（学年等・人数）

第2学年 223名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第2学年所属 6名

（4）実施内容

福祉体験学習の事前学習として実施

- ①VTR視聴（学年全体）「みんなともだち手話イチ・ニッ・サン」
 - ・各学級で視聴しながら手話についての基本的な内容を学ぶ
- ②手話に親しむ
 - ・自分の名前の表し方、
 - ・簡単な会話（自己紹介、あいさつ）
 - ・指文字による五十音の表し方

（5）成果

- VTR視聴と手話体験をとおして、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- 実施後も手話の挨拶や手話を使ったコミュニケーションをするなど、手話について興味を高めるとともに、事後の福祉体験への関心を高めることができた。
- 手話の大切さを理解し、少しでも自分たちのできることはないか考えるきっかけになった。

（6）その他

本時学習後の6月23日（木）に社会福祉協議会の協力者の協力を得て、視覚障がい者にかかわる体験活動や車いす体験等を実施した。

単元（題材）目標

○福祉対象の当事者の方々や福祉に職業やボランティアとして関わっている方々との交流を通して、福祉的心情を育む【道徳的視点をもって】

(1) 実施時期

3月上旬

(2) 対象（学年等・人数）

中学校3年生（卒業前の特別時間割として）クラス単位で合計200名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

港北手話サークル「梅の会」のみなさん 7名

学年担当者1名



(4) 実施内容

福祉体験5種類（高齢者体験，認知症理解，点字，車いす，手話）の一つとして実施。
1クラス単位（40名）ずつ，40分間で実施。

	場所	内容
手話	金木工室	聞こえない方のこと（レクチャー） 簡単な手話 自分の苗字を手話で（一人ひとり行い，代表発表） 手話コーラスをいっしょに（世界に一つだけの花）

(5) 成果

*専門性を備えた方が，グループ単位について指導してくださったので，生徒の内容理解も深まったと思われる。

<生徒感想より>

- ・手話を覚えるとしっかりと話すことができる。
- ・手話だけではなく，表情が大切。
- ・手話で漢字も表せる。
- ・難しいと思っていたが，理解できて楽しむことができた。

(6) その他

- *協力団体の方との事前調整が大事である。
- *お礼状を書き発送。喜んでいただいていたよかったです。
- *生徒たちの福祉意識向上につながった。

総合的な学習の時間 福祉体験「手話について学ぶ」

座間市立相模中学校

単元（題材）目標

- 共に生きる ～福祉の取り組みを通して～
よりよい生活を共に築いていくために、助け合う心や実践力を養う。

(1) 実施時期 11月30日(水)

(2) 対象（学年等・人数）

第1学年 192名，教職員 9名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：1年所属 9名

外部講師：市内ボランティアサークル
「星の会」 2名



(4) 実施内容

①お話：「手話について」

- 聴覚障がいの方の日常生活で、困っていることや、その工夫、また周りで生活する人からの有効な補助についてのお話を、手話通訳を交えて伺う。

②手話体験：教室にて手話実践

- 「星の会」の方 2名
- 基本的な会話（自己紹介やあいさつ等）
- 手話に関する基本的な知識等

◎高齢化社会や障がいの問題に関心を持ち、積極的に関わり共生していこうとする心を育てる。福祉体験学習を通して自分や社会を取り巻く問題・課題を見つけ、それらについて自分がどのように関わっていくかを考えさせる。

(5) 成果

- 手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- 実際に手話にふれ、簡単なあいさつ等を行い、あらためて、人と人がつながり、生きていくことの大切さ等を気付かせることができた。

〈生徒感想〈一部抜粋〉〉

- ・視聴覚障がい者の人たちが物事を伝える手段として使っていることを知ることができた。物を落としたときに気づかないのは大変だと思った。これからは、このような視覚障がい者がいて困っていそうだったら、できたら手話で対応し、できなかつたら筆談など私ができることをして、助けてあげたいと思います。（男子）
- ・自分は耳が聞こえるけど、耳が聞こえないと、今当たり前にできていたことができなくなってしまったことから、聞こえる幸せや大切さがわかった。今まで手話はとっても難しいものだと思っていただけ、歌を通していろいろな単語がわかるようになったから、もし聴覚障がいの方が困っていたら習ったことをできるようにしたい。（女子）

総合的な学習の時間 (福祉学習の一環) 手話を学ぶ

藤沢市立御所見中学校

単元(題材) 目標

- 誰でも安心して生きる社会を作る一員となる。
そのために支援の必要な人がいること、その方々の実情を知る、そして、ふれあう機会を作り、その中から、自分がどのように生きていくことが大切なのかを考える。

(1) 実施時期

- 福祉学習 7月～10月
- 手話を学ぶ 9月上旬

(2) 対象(学年等・人数)

- 第3学年 115名, 教員5名

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

- 本校教員5名
- 福祉学習: 車いすバスケットの選手, 指導者やローリングバレーの実践者
- 手話: 手話通訳士と聴覚障がいの方2人

(4) 実施内容

<福祉学習>

- 外部講師を学校に招いて, 共に活動し, ふれあう中で, 交流を深め, 共生社会について考えた。

<手話>

- 手話通訳士の自己紹介とお二人の耳の不自由な方の自己紹介。
この中で, 耳が聞こえなくなった時期(年齢)によって, 手話の使い方(手話の体得状況)も違って来るし, 話すことも可能であると説明を受ける。
- 中学生の日常生活の言葉を手話に直していく(中学生も自分の手を使って, 表現する)
- 手話とは, 難しいコミュニケーションの手段の一つではなく, 日々の生活の中に, 存在しているものでもあることと心を伝え合うことの大切さなど, 説明を受ける。
- 歌「ハッピー バースデー トゥー ユー」を手話を交えて歌う。

(5) 成果

- 神奈川県手話言語条例をうけて, 多くの子どもたちに手話を身近に感じ, 手話を体験させたいと考え, そのねらいは達成できたと感じた。
- 手話通訳士の仕事について知る機会となった。
- 指文字表(50音)をいただき, 手話を実践できる準備を整えた。
- 時間の経過とともに, 子どもたちの集中力と目の輝きの変化が印象的だった。

特別活動 生徒集会での手話体験

川崎市立高津中学校

単元（題材）目標

○手話を通して障がいのある人への理解を深め、思いやりと共に生きる心を養う。

（１）実施時期

生徒集会 12/19（月）8：30～8：45

（２）対象（学年等・人数）

全校生徒（461名）全職員（32名）

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：3年所属教職員1名



（４）実施内容

生徒集会：「生徒会本部発表」

○手話に馴染んでもらうため、簡単な手話を披露し、全校生徒で実践した。

○簡単な手話…あいさつ

「おはようございます」

「こんにちは」

「さようなら」

（５）成果

○手話体験を通して簡単なあいさつを覚えたことで、聴覚障がい者と交流を深めることができるきっかけを会得した。

○手話が、合理的に組み立てられていることを学べた。



特別活動（生徒会活動） あいさつ運動

開成町立文命中学校

単元（題材）目標

- 福祉学習についての学びをいかし、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 人間一人ひとりが、かけがえのない存在であることを理解し、学級の活動や生徒会活動にいかす。

(1) 実施時期 1月下旬～2月

(2) 対象（学年等・人数） 全校生徒（540名）

(3) 指導者（教諭・外部講師等） 生徒会担当教諭
※総合的な学習の時間での「手話ダンスグループ」からの手話指導をきっかけとする。（例年は開成町の手話サークルが講師）



(4) 実施内容

- 生徒会基本方針「日本一優しい学校」をめざして、生徒会本部役員を中心に「身のまわりの課題や苦手なことへ挑戦していこう」と呼びかけながら、各専門委員会では様々な活動を計画し取り組んでいる。
- 生徒会組織の学年委員会では、学年行事への取組や集会の企画運営のほか「朝のあいさつ運動」など活動している。
- 1学年総合的な学習の時間では「福祉」について理解を深め、手話ダンスのライブの鑑賞をする。その後、自己紹介を手話で取り組むなどの学習をする。
- 学年委員会の活動として毎月行っている「あいさつ運動」において「世界の言葉や日本の方言であいさつ」など工夫を凝らしてきたが「手話を使ってのあいさつをしよう」と学年委員の生徒が率先して手話を練習し「朝のあいさつ運動」に手話を取り入れ実施した。



(5) 成果

○手話に関心をもち、手話で自分の名前だけでなく簡単なあいさつを伝えられるようになった。コミュニケーションツールとしての手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

〈生徒感想 一部抜粋〉

- ・今回の「手話によるあいさつ運動」は、お互い笑顔で気持ちよいあいさつが飛びかい雰囲気がよかった。
- ・手話は障がいを乗り越える1つの手段であり、言葉でもある。私たちも手話を覚えて、世界共通の手話が増えたら言葉の壁もなくいい社会になると思う。

(6) その他

○開成町の手話サークルによる「手話教室」に興味を持った生徒が参加している。

地域との交流活動 「障がいがある方との手話交流」

秦野市立東中学校

単元（題材）目標

○障がいのある方（たけのこ学級生）等との交流を通して障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。

(1) 実施時期 11月20日（日）

(2) 対象（学年等・人数）

生徒（1年～3年）35名，教員5名，
地域の方（たけのこ学級生・家族・ボランティア等）63名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭～生徒会，吹奏楽部担当（3名）等
外部講師～外部講師（1名）
大学生ボランティア（9名）

(4) 実施内容

- ①ラジオ体操
- ②大学生ボランティア進行による交流ゲーム：じゃんけん列車
- ③吹奏楽部演奏：演奏に合わせてダンス等
- ④手話で歌おう：「花は咲く」
 - ・講師指導により手話練習（歌詞を一つひとつ練習）
 - ・歌をパートごとに分けて手話練習
 - ・生徒と参加者が混じり合って，手話を行いながら合唱
- ⑤みんなで歌おう：「with you ありがとう」
 - ・手話が出来る人は，手話を行いながら合唱
- ⑥みんなで踊ろう：「マイムマイム」



(5) 成果

○障がいのある方達との交流を通して，誰もがかけがえのない存在であることを理解するとともに，手話学習を通して，今後も積極的にコミュニケーションを図ろうとする意識を高めることができた。

〈生徒感想 一部抜粋〉

とても楽しかったし，これで耳が聞こえない人とも話せるのだと思い，もっとたくさんの手話を知りたいと思いました。

(6) その他

○市の生涯学習課と協働で実施したことで，多くの参加者と交流することができた。